

2025 年度（令和 7 年度）

シラバス

理学療法学科 昼間部

履正社国際医療スポーツ専門学校

開講年次	1年前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)	必須
科目名	医療倫理学		担当教員【◎は科目責任者】				表・態 思・判
			◎吉本 陵				
実務経験							
科目のねらい		医療における倫理的な課題に取り組む際に必要な諸原則を学ぶ。 医療従事者が行うケアに関する問題を倫理的な観点から考察する。					
到達目標		①医療現場で生じる倫理的な問題に対する自らの考えを論理的に表現できる。 ②医療および理学療法を取りまく倫理的課題を把握できる。 ③生命倫理について説明できる。 ④臨床倫理について説明できる。 ⑤医療および理学療法の倫理に関する規範・原則を説明できる。 ⑥倫理原則を尊重して実践できる。 ⑦生命倫理について説明できる。 ⑧医の倫理(患者・対象者の権利、医療者の義務)について説明できる。					
回数	講義計画					予/復時間	内容
第1回	ガイダンス&イントロダクション					0.5/0.5	②
第2回	生命倫理学の四つの原則					0.5/0.5	③⑤⑥
第3回	インフォームドコンセントとは何か					0.5/0.5	⑦⑧
第4回	ケアとキュア					0.5/0.5	④
第5回	患者の痛みに対するケア1 患者の痛みを理解すること					0.5/0.5	①④
第6回	患者の痛みに対するケア2 身体の痛みと心の痛み					0.5/0.5	①④
第7回	言語の喪失に対するケア1 当事者の視点から					0.5/0.5	④
第8回	言語の喪失に対するケア2 障害受傷からの立ち直り					0.5/0.5	①④
第9回	障害を受容するということ					0.5/0.5	①④
第10回	受容を援助するということ					0.5/0.5	①④
第11回	障害受容とその再考					0.5/0.5	①④
第12回	障害受容再考1セラピストのインタビューから考える					0.5/0.5	①④
第13回	障害受容再考2「障害受容」から「障害との自由」へ					0.5/0.5	①④
第14回	傾聴としてのケア					0.5/0.5	①④
第15回	患者と患者の家族に対するケア					0.5/0.5	①④
テキスト	指定なし(適宜配布)						
参考文献	指定なし(適宜指示)						
授業方法	講義を基本とし、可能であればグループワークを組み込みます。						
関連科目	リハビリテーション概論、理学療法概論、一般臨床医学						
成績評価基準と方法		授業態度(10%)、課題(30%)、筆記試験(60%)					
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			私語、及び他学生の受講の妨げになる態度・行為は厳禁。				

開講年次		1年後期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)	必須
科目名	心理学			担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎安田 傑				
実務経験								
科目のねらい		心についての学問は、思想を中心とした「哲学」の範囲として長い歴史を有しています。しかし、その心について、実験による科学的検証が可能となった「心理学」は、今から約140年前にようやく成立した新しい学問です。1年生の「心理学」では、心の性質について科学的にはどのように解明されているのかを学び、2年生で学ぶ悩みを抱えた人への心理学の応用領域である「臨床心理学」へとつなげることを目的とします。						
到達目標		①歴史について説明できる ②防衛機制と転移について説明できる ③学習、記憶、行動について説明できる ④児童・青年期心理について説明できる ⑤成人・高齢者心理について説明できる ⑥患者・対象者心理について説明できる ⑦モチベーションや不安・抑うつなどに関連する精神・心理機能のメカニズムについて説明できる。 ⑧活動(行動)と身体、認知、感情(情動)の関連を説明できる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	心理学の歴史・学問としての全体像						0.5/0.5	①
第2回	精神力動的理論1(精神分析、転移)						0.5/0.5	②
第3回	精神力動的理論2(防衛機制)						0.5/0.5	②
第4回	発達心理学1(エリクソンの理論-乳幼児～幼児期後期)						0.5/0.5	④
第5回	発達心理学2(エリクソンの理論-学童期～青年期)						0.5/0.5	④
第6回	発達心理学3(エリクソンの理論-成人期～老年期)						0.5/0.5	⑤
第7回	発達心理学4(ピアジェの理論・ボウルビーの理論)						0.5/0.5	④
第8回	学習心理学(古典的条件づけ・オペラント条件づけ)						0.5/0.5	③⑧
第9回	認知心理学(記憶)						0.5/0.5	③
第10回	感情の心理機能のメカニズム						0.5/0.5	⑦
第11回	ストレスと、その対処法						0.5/0.5	⑦
第12回	患者・対象者心理(死や障害の受容過程)						0.5/0.5	⑥
第13回	感情や行動の個人差1(特性論)						0.5/0.5	⑧
第14回	感情や行動の個人差2(類型論)						0.5/0.5	⑧
第15回	まとめ						0.5/0.5	①②③④⑤ ⑥⑦⑧
テキスト	石田彰/他編著『臨床心理学用語辞典』オーム社							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	スライドを中心とした講義を行う。また、必要に応じて動画上映やレジュメ配布を行う。							
関連科目	臨床心理学							
成績評価基準と方法		定期試験(100%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)				心理学は、身近な事象と結び付けて学ぶ事が、理解促進の早道です。				

開講年次		1年後期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)	必須
科目名	表現論			担当教員【◎は科目責任者】				思・判 表・態
				◎久保 明裕				
実務経験		○	理学療法士として臨床					
科目のねらい		医療従事者として大切な「専門職としての知識・技術」と「対象者のことを考える臨床思考能力」を臨床現場にて活かしていくには、臨床家としての適切な表現能力が必要となります。特に価値観の異なる相手とのコミュニケーションには、対立心や負の感情が邪魔をして適切な表現を用いた意思疎通が困難となる場合があります。本科目では、様々な表現方法を用い対象者との信頼関係を構築し、理学療法士に必要なコミュニケーションスキルの獲得を目指します。						
到達目標		①医療職の特性について、理解することができる。 ②自分自身(自己概念・性格・態度)について知ることができる。 ③基本的なコミュニケーション知識を理解することができる。 ④良い聴き手としての聴き方を理解することができる。 ⑤相手の状況を考慮した、伝わる伝え方を理解することができる。 ⑥相手の感情を配慮し、コミュニケーションをとることができる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション・医療職の特性について						0.5/0.5	①
第2回	医療職の特性について						0.5/0.5	①
第3回	自己分析について						0.5/0.5	②
第4回	自己分析について						0.5/0.5	②
第5回	基本的なコミュニケーションについて						0.5/0.5	③
第6回	基本的なコミュニケーションについて						0.5/0.5	③
第7回	良い聴き方について						0.5/0.5	④
第8回	良い聴き方について						0.5/0.5	④
第9回	良い聴き方について						0.5/0.5	④
第10回	コミュニケーション実践Ⅰ						0.5/0.5	⑤
第11回	コミュニケーション実践Ⅰ						0.5/0.5	⑤
第12回	コミュニケーション実践Ⅰ						0.5/0.5	⑤
第13回	コミュニケーション実践Ⅱ						0.5/0.5	⑥
第14回	コミュニケーション実践Ⅱ						0.5/0.5	⑥
第15回	コミュニケーション実践Ⅱ						0.5/0.5	⑥
教科書	指定なし(適宜配布)							
参考文献	山口美和 著『PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド 第3版』医学書院							
授業方法	講義、グループワーク							
関連科目	基礎ゼミナール、理学療法研究法Ⅰ～Ⅳ							
成績評価基準と方法		受講態度、グループワークでの積極性、終講レポートの内容						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)				積極的にグループワークに参加し学習しましょう				

開講年次		1年前期		分野	基礎	単位(時間)	2(15)	必須
科目名	基礎ゼミナールⅠ			担当教員【◎は科目責任者】				思・判 表・態
				◎井口祥平、木下拓真、清水浩之、岡林豊、市田修一、久保明裕、相星裕生、藤井隆太、松村明保、大井直樹				
実務経験								
科目のねらい		現代の医療は「チーム医療」がkey wordである。チームにおける理学療法士としての専門性を発揮し、自身の存在価値を提示する能力を育むことが重要と考える。本科目では、「チームワーク」の観点から「対象者及び他の職種との信頼関係を築くコミュニケーション能力」を育むための授業を展開する。						
到達目標		①学校、学科のシステムを理解できる。 ②専門学生になる自覚を持つことができる。 ③社会人となる基盤を形成することができる。 ④グループで協働する能力を身につけることができる。 ⑤傾聴(相手の意見を聴く力)する能力を身につけることができる。 ⑥相手が伝えたいことの要点を捉えることができる。 ⑦アウトプットする能力を身につけることができる。 ⑧課題解決型の思考力を身につけることができる。 ⑨社会人基礎力について理解できる。 ⑩得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自身の考えを表現できる。 ⑪基本的な能力を身につけるためのカリキュラムの選択と単位取得ができる。 ⑫日々の理学療法実践の省察の重要性が説明できる。 ⑬清潔で適切な身だしなみ、言葉遣い、礼儀正しい態度で対象者に接する ⑭共感的態度を持って、より良い・善い人間関係を構築する ⑮周囲における自己の存在を意識した言動を行う						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	学校生活を営む上で必要な諸手続き						0.5/0.5	①②
第2回	新入時オリエンテーション						0.5/0.5	①②
第3回	社会人として必要なスキル①:話を聞く、意見を出す						0.5/0.5	③④⑤⑥⑦
第4回	社会人として必要なスキル②:チームの意見をまとめる						0.5/0.5	③④⑤⑥⑦
第5回	社会人として必要なスキル③:リーダーシップ						0.5/0.5	③④⑤⑥⑦
第6回	専門学校での学びとは?「教育に関するオリエンテーション」						0.5/0.5	⑧⑨⑩⑪
第7回	専門学校での学びとは?「教育に関するオリエンテーション」						0.5/0.5	⑧⑨⑩⑪
第8回	専門学校での学びとは?「特別講義:解剖学」						0.5/0.5	⑧⑨⑩⑪⑫
第9回	専門学校での学びとは?「特別講義:解剖学」						0.5/0.5	⑧⑨⑩⑪⑫
第10回	専門学校での学びとは?「+αの重要性」						0.5/0.5	⑧⑨⑩⑪⑫
第11回	指定論文読解と発表①						0.5/0.5	⑧⑨⑩⑪⑫
第12回	指定論文読解と発表②						0.5/0.5	⑧⑨⑩⑪⑫
第13回	指定論文読解と発表③						0.5/0.5	⑧⑨⑩⑪⑫
第14回	指定論文読解と発表④						0.5/0.5	⑧⑨⑩⑪⑫
第15回	指定論文発表会						0.5/0.5	⑬⑭⑮
教科書	指定なし(適宜配布)							
参考文献	Microsoft(word,Excel,Power point)やGoogle(ドキュメント、スプレッドシート、スライド)に関する書籍が多数市販されています。4年間を通してこれらの使用頻度が高くなりますので、使用に苦手意識がある方は、各自学習を進めてみてください。							
授業方法	講義、体験、振り返りを通して学習する。							
関連科目	理学療法研究法Ⅰ～Ⅳ							
成績評価基準と方法		出席率、レポート						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)				グループワークを多く設定しています。その意味をしっかりと考えて、参加をしてください。				

開講年次		1年前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)	必須
科目名	基礎ゼミナールⅡ			担当教員【◎は科目責任者】				思・判 表・態
				◎清水浩之、市田修一、藤井隆太				
実務経験								
科目のねらい		効果的な学習を進めるためには、自分にあった学習方法を早期に確立することが重要である。また、外部講師との関係づくりや実習での他者のコミュニケーションには社会人としての基礎的な力も大切になります。 そのため、本講義では ・社会人の基礎力を構築すること ・自己のマイプラン作成を通して、上級生とのミーティングも踏まえて学生生活を考えること ・外部のプロフェッショナル講師から、ご自身の将来像を広げること 上記のような部分を中心に講義を進めていきます。						
到達目標		①目の前の課題に対する優先順位をつけることができるようなスケジューリングができる。 ②学習習慣を定着できる。 ③学習に対する結果から、自己の学習方法などを振り返り、必要に応じて修正できる。 ④講義・教科書・参考文献・論文等により重要項目や課題点・目標を設定できる。 ⑤生涯にわたる自己研鑽の必要性が説明できる。 ⑥能力向上のために実践可能な学習方法を説明できる。 ⑦自らが置かれた立場で、必要とされている要件を認識し、他者や指導者の助言などに対して適切に応答する。 ⑧社会人として、どのような能力が必要か検討し、理解する。 ⑨キャリアパス、キャリア開発の概念について説明できる。 ⑩社会と理学療法の関連性について理解し、個々のキャリアパスの検討に活用することができる。 ⑪自らの卒業後のキャリアデザインを表現する。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション/社会人基礎力①						0.5/0.5	⑤～⑧
第2回	社会人基礎力②						0.5/0.5	⑤～⑧
第3回	社会人基礎力③						0.5/0.5	⑤～⑧
第4回	社会人基礎力④						0.5/0.5	⑤～⑧
第5回	身体的コミュニケーション①						0.5/0.5	⑦⑧
第6回	身体的コミュニケーション②						0.5/0.5	⑦⑧
第7回	マイプラン①						0.5/0.5	①～④
第8回	マイプラン②						0.5/0.5	①～④
第9回	自己分析①						0.5/0.5	①～④
第10回	自己分析②						0.5/0.5	①～④
第11回	プロフェッショナル①						0.5/0.5	⑨～⑪
第12回	プロフェッショナル②						0.5/0.5	⑨～⑪
第13回	プロフェッショナル③						0.5/0.5	⑨～⑪
第14回	実力テスト						0.5/0.5	②
第15回	まとめ(HR)						0.5/0.5	
教科書	指定なし(適宜配布)							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	講義、グループワーク、課題に対する学習並びに提出、フィードバック							
関連科目	学習方法の確立という意味では全科目に関連します。							
成績評価基準と方法		出席率、成果物						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)		専門教育では、みなさんの「主体性」がとても重要となります。 科目のねらいを熟読して、各回講義の意味を自分なりに考えて講義へ参加してください。						

開講年次	1年前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)	必須
科目名	栄養学		担当教員【◎は科目責任者】				知
			◎酒井 恵				
実務経験	○	管理栄養士として臨床					
科目のねらい	情報社会ではあるけども情報に流されず、栄養の基本の「キ」を知り、理学療法を行う上でも適切なアドバイスができるようにする。						
到達目標	①栄養学の基礎を理解することができる。 ②主な病態栄養学の基礎を理解することができる。 ③栄養に関する簡単なアドバイスをすることができる。						
回数	講義計画					予/復時間	内容
第1回	リハビリテーションにおける栄養の知識の重要性					0.5/0.5	①
第2回	栄養の基礎					0.5/0.5	①
第3回	五大栄養素の役割①(炭水化物)					0.5/0.5	①
第4回	五大栄養素の役割②(たんぱく質)					0.5/0.5	①
第5回	五大栄養素の役割③(脂質)					0.5/0.5	①
第6回	五大栄養素の役割④(ビタミン)					0.5/0.5	①
第7回	五大栄養素の役割⑤(ミネラル)					0.5/0.5	①
第8回	主な病態の栄養学①メタボリックシンドローム					0.5/0.5	②
第9回	主な病態の栄養学②糖尿病					0.5/0.5	②
第10回	主な病態の栄養学③高血圧・脳卒中					0.5/0.5	②
第11回	主な病態の栄養学④脂質異常症					0.5/0.5	②
第12回	主な病態の栄養学⑤廃用症候群					0.5/0.5	②
第13回	ダイエット					0.5/0.5	②
第14回	スポーツ栄養学入門					0.5/0.5	②
第15回	まとめ					0.5/0.5	②
教科書	杉山英子/他著『基礎栄養学』化学同人 内山靖/他編『リハベータック 生化学・栄養学』医歯薬出版						
参考文献	指定なし(適宜指示)						
授業方法	テキスト配布、補足資料、パワーポイントを使用し授業します。						
関連科目	理学療法治療学系科目						
成績評価基準と方法	定期試験、出席率、授業態度						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	居眠り頻度の高い生徒は最終点数が出た時点で1～5点の減点とする。 居眠りの初めの2回は注意のみ、以降はチェックし、頻度の高い学生は減点対象にします。						

開講年次		1年前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)	必須
科目名	英語			担当教員【◎は科目責任者】				知・表
				◎土屋 素明				
実務経験								
科目のねらい		医学の最新知見を入手したり、学術論文作成には英語力は必須となる。また、理学療法においてもグローバル化の波が押し寄せているため、これからは英語スキルはますます重要となる。本講義では、以下の構成により英語スキルの向上を図る。 1. 一般科学および基礎医学を中心とした専門英語及びその使用法の習得。 2. オーディオ教材を使用したスピーキング・リスニングトレーニングと英語表現。 3. 医療現場における英会話。						
到達目標		①一般科学、生理学、解剖学を中心に、基礎医学関連の専門用語が理解できる。 ②一般科学、生理学、解剖学を中心に、基礎医学関連の専門用語の正確な発音ができる。 ③一般科学、生理学、解剖学を中心に、基礎医学関連の専門用語のボキャブラリー向上ができる。 ④スピーキング能力の向上により、基礎的な英語によるコミュニケーションができる。 ⑤リスニング能力の向上により、基礎的な英語コミュニケーションができる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	導入、身体英単語・英語学力試験						0.5/0.5	①～⑤
第2回	科学・医学英単語・英語表現・コミュニケーション						0.5/0.5	①～⑤
第3回	栄養学英単語・英語表現・コミュニケーション						0.5/0.5	①～⑤
第4回	解剖学英単語・英語表現・コミュニケーション						0.5/0.5	①～⑤
第5回	細胞英単語・英語表現・コミュニケーション						0.5/0.5	①～⑤
第6回	組織英単語・英語表現・コミュニケーション						0.5/0.5	①～⑤
第7回	骨組織英単語・英語表現・コミュニケーション						0.5/0.5	①～⑤
第8回	軸骨格1英単語・英語表現・コミュニケーション						0.5/0.5	①～⑤
第9回	軸骨格2英単語・英語表現・コミュニケーション						0.5/0.5	①～⑤
第10回	付属肢骨格1英単語・英語表現・コミュニケーション						0.5/0.5	①～⑤
第11回	付属肢骨格2英単語・英語表現・コミュニケーション						0.5/0.5	①～⑤
第12回	関節英単語・英語表現・コミュニケーション						0.5/0.5	①～⑤
第13回	筋組織英単語・英語表現・コミュニケーション						0.5/0.5	①～⑤
第14回	筋肉系英単語・英語表現・コミュニケーション						0.5/0.5	①～⑤
第15回	骨格筋1英単語・模試						0.5/0.5	①～⑤
教科書	三木貴弘/他著『PT・OTが書いたりハビリテーション英会話』MEDICAL VIEW							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	1.用語の発音、スペリング、使用方法の解説および暗記 2. オーディオによるスピーキングとリスニング 3. 英語表現							
関連科目	医療英語							
成績評価基準と方法		1. 授業中に実施する英単語試験 2. 質問、発言、発声など積極的な授業態度 3. 筆記試験						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)				1. 毎回実施される英単語試験のための暗記 2. 積極的な態度で授業に臨み、質問や発言は適時行うこと。				

開講年次		1年後期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)	必須
科目名	医学英語			担当教員【◎は科目責任者】				知・表
				◎土屋 素明				
実務経験								
科目のねらい		医学の最新知見を入手したり、学術論文作成には英語力は必須となる。また、理学療法においてもグローバル化の波が押し寄せているため、これからは英語スキルはますます重要となる。本講義では、以下の構成により英語スキルの向上を図る。 1. リハビリテーションを中心とした専門英語の習得と、使用法の習得。 2. 英文による健康及び基礎医学関連資料の読解。 3. 臨床現場で必要となる英語表現や英語を使ったコミュニケーション方法。						
到達目標		①基礎医学、特にリハビリテーションに関する重要基礎英語の習得できる。 ②英文による基礎医学資料を読解できる。 ③臨床現場で必要となる英語表現を理解し、使うことができる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	骨格筋2英単語・英文読解方法について						0.5/0.5	①～③
第2回	骨格筋3英単語・基礎英文の読解						0.5/0.5	①～③
第3回	神経系英単語・基礎英文の読解						0.5/0.5	①～③
第4回	循環器系英単語・基礎英文の読解						0.5/0.5	①～③
第5回	消化器系英単語・医学関連資料の読解						0.5/0.5	①～③
第6回	内分泌・呼吸器系英単語・医学関連資料の読解						0.5/0.5	①～③
第7回	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解						0.5/0.5	①～③
第8回	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解						0.5/0.5	①～③
第9回	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解						0.5/0.5	①～③
第10回	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解						0.5/0.5	①～③
第11回	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解						0.5/0.5	①～③
第12回	リハビリ関連英単語・医学関連資料の読解						0.5/0.5	①～③
第13回	骨格系英単語・医学関連資料の読解						0.5/0.5	①～③
第14回	骨格筋英単語・医学関連資料の読解						0.5/0.5	①～③
第15回	ケーススタディ・模試						0.5/0.5	①～③
教科書	清水雅子/他編『リハビリテーション英語の基本用語と表現』MEDICAL VIEW							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	1.用語の発音、スペリング、使用方法の解説および暗記 2. オーディオによるスピーキングとリスニング 3. 英語文献の購読、読解及びディスカッション							
関連科目	英語							
成績評価基準と方法		1. 授業中に実施する英単語試験 2. 質問、発言、発声など積極的な授業態度 3. 筆記試験						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)		1. 毎回実施される英単語試験のための暗記 2. 積極的な態度で授業に臨み、質問や発言は適時行うこと。						

開講年次	1年前期		分野	基礎	単位(時間)	2(30)	必須
科目名	健康学概論		担当教員【◎は科目責任者】				知
			◎岡林 豊				
実務経験	○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい	健康・体づくりの理論的背景を知り、「健康」に関する基礎的理論に理解を深める。また、現代の社会・環境を考慮した「健康」の創造について理解を深める。						
到達目標	①健康の定義・概念について説明できる。 ②健康に対する国の取り組みを説明できる。 ③健康寿命について説明できる。 ④健康格差について説明できる。 ⑤生活習慣、生活習慣病について説明できる。 ⑥生活機能の維持・向上について説明できる。 ⑦生活や健康に関わる専門職・非専門職について説明できる。 ⑧人生の各期において抱える健康面の課題について説明できる。 ⑨人生の各期におけるライフスタイルの変化について説明できる。 ⑩自然災害時に生じる健康課題について説明できる。 ⑪自然災害時に避難所における健康課題について説明できる。 ⑫復興支援期における健康課題について説明できる。 ⑬復興支援期における生活課題について説明できる。 ⑭第一次予防について説明できる ⑮第二次予防について説明できる。 ⑯第三次予防について説明できる。 ⑰社会環境とストレスの関係について説明できる。 ⑱ストレスへの対処としての健康管理について説明できる。 ⑲行動変容の段階について説明できる。						
回数	講義計画					予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション(自分の健康について考える)					0.5/0.5	①
第2回	健康の概念					0.5/0.5	①
第3回	日本の健康に対する政策(健康日本21)					0.5/0.5	②
第4回	日本の健康に対する政策とその背景(人口構造、社会保障など)					0.5/0.5	②
第5回	健康寿命、健康格差					0.5/0.5	②③④
第6回	生活習慣病					0.5/0.5	②⑤
第7回	ロコモティブシンドローム、運動器不安定症、サルコペニア、フレイル					0.5/0.5	②⑥
第8回	介護保険					0.5/0.5	②⑥
第9回	専門職と非専門職、ライフステージ					0.5/0.5	⑦⑧⑨
第10回	ライフステージ					0.5/0.5	⑧⑨
第11回	健康と自然災害					0.5/0.5	⑩⑪⑫⑬
第12回	予防医学					0.5/0.5	⑭⑮⑯
第13回	健康とストレス					0.5/0.5	⑰⑱
第14回	行動変容ステージ					0.5/0.5	⑲
第15回	まとめ					0.5/0.5	①～⑱
教科書	指定なし(適宜配布)						
参考文献	指定なし(適宜指示)						
授業方法	講義、グループワーク						
関連科目							
成績評価基準と方法	出席、課題提出						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			まず健康について考えてみましょう。また、健康を維持するためや、様々な場面の健康を考えてみましょう。				

開講年次	1年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	解剖学Ⅰ		担当教員【◎は科目責任者】				知
			◎清水 浩之				
実務経験	○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい	運動器系(骨・関節・靱帯)の構造を中心に講義を進め、人体の構成を理解することを目的に講義する。 また、医療専門職として、人体の専門用語を読める、書ける能力を備え解剖学演習(骨に触れる技術)、体表解剖学(筋に触れる技術)の基盤となる知識を身に着けることを期待する。						
到達目標	①身体を構成する組織と器官の構造と機能について理解できる。 ②骨・関節の構造と機能について理解できる。 ③靱帯の構造と機能について理解できる。 ④骨格筋の構造と機能について理解できる。						
回数	講義計画					予/復時間	内容
第1回	科目オリエンテーション、総論:解剖学ってなに?□					0.0/1.0	①
第2回	骨学① 骨格系総論:骨の形、役割に違いがあるって知ってる?					0.0/1.0	②
第3回	骨学② 下肢帯・自由下肢帯:下肢の骨の特徴を捉えよう!					0.0/1.0	②
第4回	骨学③ 上肢帯・自由上肢帯:上肢・下肢って似てる?大きさは?					0.0/1.0	②
第5回	骨学④ 脊柱・胸郭・骨盤:なぜこのような形?					0.0/1.0	②
第6回	骨学⑤ 頭蓋骨:頭の骨ってこんなに多い?、骨学まとめ					0.0/1.0	②
第7回	関節学① 関節学総論:骨の連結の種類と関節形状による動きの違い・補強組織					0.0/1.0	②③
第8回	関節学② 下肢帯・自由下肢帯:支えながら動かすための関節とは?					0.0/1.0	②③
第9回	関節学③ 上肢帯・自由上肢帯:多様な動きに対応できる関節とは?					0.0/1.0	②③
第10回	関節学④ 脊柱・胸郭・骨盤:支えて守る関節とは?					0.0/1.0	②③
第11回	筋学① 筋学総論:骨があり、関節があり、筋があるから動かせる!					0.0/1.0	④
第12回	筋学② 下肢帯・自由下肢帯:どこからどこにつく?					0.0/1.0	④
第13回	筋学③ 上肢帯・自由上肢帯:どんな筋の形状?					0.0/1.0	④
第14回	筋学④ 脊柱・胸郭・骨盤:体を回すためには筋はどこにつく?					0.0/1.0	④
第15回	神経学① 筋を分類わけ。筋群としてまとめてみてみよう!					0.0/1.0	①④
教科書	伊藤隆原著『解剖学講義改定第3版』南山堂						
参考文献	標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版、プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論 運動器系ネット解剖学図譜、骨格筋の形と触察法、運動療法のための機能解剖学的触診技術						
授業方法	共同学習型授業						
関連科目	理学療法に関わる全科目の基礎となります。						
成績評価基準と方法	出席率(10%)、課題提出(90%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	人体のことを知っていくことは、難しくも新しいことを知る楽しい機会かと思います。学習量は多いために、積極的に復習を進め、わからないことは何度でも質問に来る積極性を期待します。						

開講年次	1年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	解剖学Ⅱ		担当教員【◎は科目責任者】				知
			◎宇留島 隼人				
実務経験							
科目のねらい		本科目では、解剖学、組織学の形態学を中心にした細胞、組織、臓器の成り立ち、ならびにその基本的な機能について学ぶ。					
到達目標		①細胞の基本的な構造と機能について理解できる。 ②上皮組織の構造と機能を説明できる。 ③間葉組織の構造と機能を説明できる。 ④細胞周期と細胞分裂について説明できる。 ⑤細胞死の種類とその基本的なメカニズムについて説明できる。 ⑥呼吸器(気管支、肺など)の構造と機能について説明できる。 ⑦消化器(胃・腸・肝臓など)の構造と機能について説明できる。 ⑧その他の内臓器(内分泌器、泌尿器、感覚器、生殖器など)の構造と機能について説明できる。					
回数	講義計画					予/復時間	内容
第1回	解剖学総論					0.5/0.5	①②③
第2回	細胞組織学総論					0.5/0.5	①②③④⑤
第3回	発生					0.5/0.5	①②③⑧
第4回	生殖器					0.5/0.5	①②③⑧
第5回	感覚器					0.5/0.5	①②③⑧
第6回	感覚器					0.5/0.5	①②③⑧
第7回	感覚器					0.5/0.5	①②③⑧
第8回	まとめ1					0.5/0.5	
第9回	呼吸器					0.5/0.5	①②③⑥
第10回	呼吸器					0.5/0.5	①②③⑥
第11回	消化器					0.5/0.5	①②③⑦
第12回	消化器					0.5/0.5	①②③⑦
第13回	消化器					0.5/0.5	①②③⑦
第14回	内分泌					0.5/0.5	①②③⑧
第15回	まとめ2					0.5/0.5	
教科書	酒井建雄/他編『人体の正常構造と機能』日本医事新報社						
参考文献	指定なし(適宜指示)						
授業方法	PCによるプレゼンテーション						
関連科目	理学療法に関わる全科目の基礎となります。						
成績評価基準と方法		定期試験(100%)					
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)							

開講年次	1年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	解剖学Ⅲ		担当教員【◎は科目責任者】				知
			◎木山 博資				
実務経験							
科目のねらい		中枢神経系と末梢神経系、および循環器系についての構造と機能について学ぶ。また、それらの基本的な病態について理解する。					
到達目標		①脳と脊髄の外観と内部構造について説明できる。 ②脳や脊髄の求心性・遠心性線維の連絡と機能について説明できる。 ③脳神経や脊髄神経の知覚・運動・自律機能について説明できる。 ④心臓と血管の構造、つながりにについて理解し、その病態についても説明できる。 ⑤リンパ管リンパ節の構造とネットワークについて説明できる。 ⑥神経(末梢・中枢神経系)の構造と機能について説明できる。 ⑦循環器(心臓・血管など)の構造と機能について説明できる。					
回数	講義計画					予/復時間	内容
第1回	中枢神経系の発生・外観、神経組織学					0.5/0.5	①⑥
第2回	大脳、大脳基底核、辺縁系					0.5/0.5	①②⑥
第3回	間脳、中脳					0.5/0.5	①②③⑥
第4回	橋・小脳・延髄					0.5/0.5	①②③⑥
第5回	脊髄					0.5/0.5	①②③⑥
第6回	求心性遠心性伝導路					0.5/0.5	②③
第7回	中枢神経系まとめ					0.5/0.5	①②③⑥
第8回	末梢神経系総論・脳神経1					0.5/0.5	①③⑥
第9回	脳神経2、脊髄神経1(頸神経叢)					0.5/0.5	①③⑥
第10回	脊髄神経2(腕神経叢、腰神経叢、仙骨神経叢)					0.5/0.5	①③⑥
第11回	脊髄神経2(自律神経系)、末梢神経系まとめ					0.5/0.5	①③⑥
第12回	脈管総論と心臓の外観					0.5/0.5	④⑦
第13回	心臓の内面と機能、脳血管、頭頸部血管					0.5/0.5	④⑦
第14回	腹部血管、四肢の血管とリンパ系					0.5/0.5	④⑤⑦
第15回	脈管系まとめ					0.5/0.5	④⑤⑦
教科書	木山博資/他編『人体の解剖生理学』金芳堂						
参考文献	指定なし(適宜指示)						
授業方法	プリント資料を配布し、それに沿って講義を行う。適宜演習を行う。						
関連科目	理学療法に関わる全科目の基礎となります。						
成績評価基準と方法		定期試験および中間確認試験(合わせて100%)					
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			理学療法に関わる全科目の基礎となります。				

開講年次		1年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名		解剖学演習		担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎藤井 隆太				
実務経験		○	理学療法士として臨床					
科目のねらい		理学療法士にとって必須の運動器系(骨・関節・靱帯)の構造を中心に、解剖学Ⅰで学んだ知識を活かして、人体の構造に骨模型や体表から触れる。この科目で触れた骨・関節・靱帯が体表解剖学、運動学、評価学へ繋がっていきましょう。						
到達目標		①全身の骨格の名称、位置関係が答えられる ②骨の各部位の名称がわかり、触れられる。 ③関節運動の方向が理解できて、触れられる。 ④(全身の筋の名称・起始・停止・作用がわかる)						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション(触診の基本)(教科書①p.2-10)						0.5/0.5	①
第2回	膝関節周辺の骨を模型・体表で触れて理解する (教科書②p.30-53,動画9本)						0.5/0.5	②③
第3回	膝関節周辺の骨/靱帯/関節を体表から理解する (教科書②p.92-117,動画7本)						0.5/0.5	②③④
第4回	足関節周辺の骨を模型・体表で触れて理解する (教科書②p.54-87,動画20本)						0.5/0.5	②③
第5回	足関節周辺の骨/靱帯/関節を体表から理解する (教科書②p.118-134,動画6本)						0.5/0.5	②③④
第6回	股関節周辺の骨を模型・体表で触れて理解する (教科書②p.2-17,動画8本)						0.5/0.5	②③
第7回	股関節周辺の骨/靱帯/関節を体表から触れて理解する (教科書②p.18-29,動画4本)						0.5/0.5	②③④
第8回	肩関節周辺の骨を模型・体表で触れて理解する (教科書①p.16-32,p33-38,p39-44,動画10本)						0.5/0.5	②③
第9回	肩関節周辺の骨/靱帯/関節を体表から理解する (教科書①p.108-133,動画6本)						0.5/0.5	②③④
第10回	肘関節周辺の骨を模型・体表で触れて理解する (教科書①p.45-59,p60-63,p70-72,動画8本)						0.5/0.5	②③
第11回	肘関節周辺の骨/靱帯/関節を体表から触れる理解する (教科書①p.134-149,動画5本)						0.5/0.5	②③④
第12回	手関節周辺の骨を模型・体表から触れて理解する (教科書①p.64-69,p73-79,p80-101,動画12本)						0.5/0.5	②③④
第13回	胸郭に関連する諸組織を模型・体表から触れて理解する (教科書②p.268-280,動画7本)						0.5/0.5	②③
第14回	脊柱に関連する諸組織を模型・体表から触れて理解する (教科書②p.286-302,動画13本)						0.5/0.5	②③
第15回	まとめ・実技練習						0.5/0.5	
教科書		①林典雄/執 運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 ②林典雄/執 運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹						
参考文献		解剖学講義、骨格筋の形と触察法						
授業方法		教科書・骨模型・お互いの身体を使って、グループワークを通じて学習する。						
関連科目		理学療法に関わる全科目の基礎となります。						
成績評価基準と方法		小テスト(30%)、期末テスト(70%)、出席率と授業態度						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)		解剖学Ⅰで学んだことを実際に触れて説明できるようにしていきます。講義内で正確に触れることは難しいため、必ず自己学習時間を確保しましょう。教科書の動画(115本)を中心に授業の予習・復習をするように心がけてください。講義では爪を切っておくことと、短パン・タンクトップ(Tシャツ)の準備を忘れないようにしてください。						

開講年次		1年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	生理学Ⅰ			担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎井口 祥平				
実務経験		○	クリニック勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい		生理学は理学療法士にとって解剖学、運動学と並んで基本となる科目である。生理学は生体のメカニズム、機能を知る学問であり、人の身体活動において、身体の諸機関がどのように機能しているのかを学ぶ。						
到達目標		①人体を構成する細胞、組織、器官、器官系の関係を理解する。 ②細胞の機能を説明できる。 ③末梢神経、中枢神経系の機能を説明できる。 ④筋組織の機能について説明できる。 ⑤感覚の機能について説明できる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション						0.5/0.5	①
第2回	細胞(細胞小器官、細胞膜、DNA、タンパク質合成)						0.5/0.5	①②
第3回	細胞の環境(浸透圧)						0.5/0.5	①②
第4回	膜電位(浸透圧、静止膜電位)						0.5/0.5	①②
第5回	膜電位(活動電位)						0.5/0.5	①②
第6回	興奮・伝導・伝達						0.5/0.5	①②③
第7回	末梢神経						0.5/0.5	②③
第8回	反射						0.5/0.5	②③
第9回	中枢神経系(伝導路)						0.5/0.5	②③
第10回	中枢神経系(大脳)						0.5/0.5	②③
第11回	筋生理						0.5/0.5	④
第12回	筋生理						0.5/0.5	④
第13回	筋生理						0.5/0.5	④
第14回	筋生理						0.5/0.5	④
第15回	まとめ						0.5/0.5	
教科書		岡田隆夫/他著『標準理学療法学・作業療法学 生理学』医学書院						
参考文献		岡田隆夫/他著『カラーイラストで学ぶ 第3版 集中講義生理学』MEDICAL VIEW						
授業方法		講義形式(パワーポイントとプリント)						
関連科目		理学療法に関わる全科目の基礎となります。						
成績評価基準と方法		定期試験(100%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)				理学療法士にとって基礎となる学問であるため、真剣に受講すること				

開講年次	1年後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	生理学Ⅱ		担当教員【◎は科目責任者】				知
			◎井口 祥平				
実務経験	○	クリニック勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい	生理学は理学療法士にとって解剖学、運動学と並んで基本となる科目である。生理学は生体のメカニズム、機能を知る学問であり、人の身体活動において、身体の諸機関がどのように機能しているのかを学ぶ。						
到達目標	①人における血液、心臓、循環器系の役割について説明できる。 ②呼吸器系の役割について説明できる。 ③消化吸収の役割について説明できる。 ④内分泌系の役割について説明できる。 ⑤泌尿器系の役割について説明できる。						
回数	講義計画					予/復時間	内容
第1回	血液(赤血球)					0.5/0.5	①
第2回	血液(白血球)					0.5/0.5	①
第3回	血液(血漿)					0.5/0.5	①
第4回	消化と吸収(消化管の構造、嚥下)					0.5/0.5	③
第5回	消化と吸収(消化の流れ、消化管ホルモン)					0.5/0.5	③
第6回	消化と吸収(吸収、小腸、排便)					0.5/0.5	③
第7回	内分泌(内分泌とは、調整様式)					0.5/0.5	④
第8回	内分泌(ホルモンの種類、作用)					0.5/0.5	④
第9回	腎・泌尿器(腎臓の機能、濾過)					0.5/0.5	⑤
第10回	腎・泌尿器(再吸収と分泌)					0.5/0.5	⑤
第11回	循環(心周期、刺激伝導系)					0.5/0.5	①
第12回	循環(心筋の収縮)					0.5/0.5	①
第13回	呼吸1					0.5/0.5	②
第14回	呼吸2					0.5/0.5	②
第15回	まとめ					0.5/0.5	
教科書	岡田隆夫/他著『標準理学療法学・作業療法学 生理学』医学書院						
参考文献	岡田隆夫/他著『カラーイラストで学ぶ 第3版 集中講義生理学』MEDICAL VIEW						
授業方法	講義形式(パワーポイントとプリント)						
関連科目	理学療法に関わる全科目の基礎となります。						
成績評価基準と方法		定期試験(100%)					
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			理学療法士にとって基礎となる学問であるため、真剣に受講すること				

開講年次		1年後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	生理学Ⅲ			担当教員【◎は科目責任者】				知・技 思・判
				◎井口 祥平				
実務経験		○	クリニック勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい		生理学Ⅰ・Ⅱで学習したことを基礎に、運動によって生じる身体機能の変化を実際に測定・観察する。理学療法にとって客観的指標は極めて重要となり、測定によって得られたデータの解釈を理解することは極めて重要となる。本講義では、測定することを経験しながら生理学データを測定、読み解くことを学ぶ。						
到達目標		①身体計測を実施し、各個人のデータと基準を比較し説明できる。 ②血圧測定の意義を理解し、説明できる。 ③体力測定の意義を理解し、説明できる。 ④心電図の意義を理解し、説明できる。 ⑤筋電図の意義を理解し、説明できる。 ⑥感覚の機能について説明できる。 ⑦呼吸器系の役割について説明できる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	感覚の生理学						0.5/0.5	①⑥
第2回	感覚機能 測定実習						0.5/0.5	①⑥
第3回	感覚機能 レポート作成						0.5/0.5	①⑥
第4回	循環器の生理学						0.5/0.5	①②④
第5回	心電図 測定実習						0.5/0.5	①②④
第6回	心電図 レポート作成						0.5/0.5	①②④
第7回	呼吸器の生理学 説明						0.5/0.5	①⑦
第8回	呼吸機能評価 測定実習						0.5/0.5	①⑦
第9回	呼吸機能評価 レポート作成						0.5/0.5	①⑦
第10回	筋電図 測定実習						0.5/0.5	①⑤
第11回	筋電図 測定実習						0.5/0.5	①⑤
第12回	筋電図 レポート作成						0.5/0.5	①⑤
第13回	運動による身体の変化 説明						0.5/0.5	①③
第14回	運動による身体の変化 測定実習						0.5/0.5	①③
第15回	運動による身体の変化 レポート作成						0.5/0.5	①③
教科書	大槻伸吾/編著『フローチャートで学ぶ運動生理学実習』建帛社							
参考文献	岡田隆夫/他著『カラーイラストで学ぶ 第3版 集中講義生理学』MEDICAL VIEW							
授業方法	授業および測定実習を実施する。							
関連科目	理学療法に関わる全科目の基礎となります。							
成績評価基準と方法		定期試験(100%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)		測定実習を実施するため、動きやすい服装で受講すること。						

開講年次		1年後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	体表解剖学			担当教員【◎は科目責任者】				思・判 表・態
				◎花崎 太一				
実務経験		○	理学療法士として臨床					
科目のねらい		骨格筋の位置や形が、体表面状から触察できるよう各筋の解剖学的特徴ならびに体表面状からの触察のポイント、ランドマークの把握を実技を中心に実施する。						
到達目標		①各筋の位置や形が体表面状からイメージできるようになる。 ②筋の触察でのランドマークが理解できる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	三角筋(前部・中部・後部)						0.5/0.5	①②
第2回	棘上筋・棘下筋・小円筋						0.5/0.5	①②
第3回	僧帽筋・菱形筋・肩甲挙筋						0.5/0.5	①②
第4回	上腕二頭筋、上腕筋、烏口腕筋(大胸筋)						0.5/0.5	①②
第5回	広背筋・大円筋・前鋸筋						0.5/0.5	①②
第6回	最長筋、腸肋筋、多裂筋、腰方形筋						0.5/0.5	①②
第7回	大殿筋・外側後筋						0.5/0.5	①②
第8回	中殿筋・梨状筋・内外閉鎖・上下双子筋・大腿方形筋						0.5/0.5	①②
第9回	大腿二頭筋、半腱・半膜様筋						0.5/0.5	①②
第10回	大腿直筋・内側広筋・外側広筋(前面)						0.5/0.5	①②
第11回	縫工筋・薄筋・長内転筋・大内転筋						0.5/0.5	①②
第12回	前脛骨筋・長趾伸筋・長母趾伸筋						0.5/0.5	①②
第13回	腓腹筋・ヒラメ筋・長短腓骨筋						0.5/0.5	①②
第14回	腕橈骨筋・長短橈側手根筋伸筋・肘筋・総指伸筋						0.5/0.5	①②
第15回	長掌筋・橈側(尺側)手根屈筋・円回内筋・深(浅)指屈筋						0.5/0.5	①②
教科書	骨格筋の形と触察法							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	実技を中心に実施する。							
関連科目	解剖学Ⅰ、解剖学演習、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、理学療法評価学							
成績評価基準と方法		実技試験と筆記試験						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)				触診は理学療法の基礎で評価、治療においても重要です。 宜しく願います。				

開講年次	1年後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	運動学Ⅰ		担当教員【◎は科目責任者】				知
			◎岡林 豊				
実務経験	○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい	前半では、生体力学や関節構造や運動の名称について解説する。 後半では、各関節の骨運動や筋機能について説明する。						
到達目標	①運動時に各関節に加わるモーメントや筋活動について説明できる。 ②関節の種類とその構成要素について説明できる。 ③四肢の関節運動のメカニズムについて説明できる。 ④体幹の関節運動のメカニズムについて理解できる。						
回数	講義計画					予/復時間	内容
第1回	オリエンテーション、生体力学について					0.5/0.5	①
第2回	生体力学について					0.5/0.5	①
第3回	関節の構造と種類、運動の名称、凹凸の法則について					0.5/0.5	②
第4回	筋肉の収縮様式について					0.5/0.5	②
第5回	肩関節複合体 関節と骨運動と筋機能					0.5/0.5	③
第6回	肩関節複合体 関節と骨運動と筋機能					0.5/0.5	③
第7回	肘関節・前腕 関節と骨運動と筋機能					0.5/0.5	③
第8回	手関節・手指 関節と骨運動と筋機能					0.5/0.5	③
第9回	股関節 関節と骨運動と筋機能					0.5/0.5	③
第10回	股関節 関節と骨運動と筋機能					0.5/0.5	③
第11回	膝関節 関節と骨運動と筋機能					0.5/0.5	③
第12回	膝関節 関節と骨運動と筋機能					0.5/0.5	③
第13回	足関節・足部 関節と骨運動と筋機能					0.5/0.5	③
第14回	体幹 関節と骨運動と筋機能					0.5/0.5	④
第15回	体幹 関節と骨運動と筋機能					0.5/0.5	④
教科書	中村隆一/他著『基礎運動学』医歯薬出版						
参考文献	嶋田智明/監訳『筋骨格系のキネシオロジー』医歯薬出版 伊東元/他著『標準理学療法学・作業療法学 運動学』医学書院						
授業方法	講義形式						
関連科目	理学療法に関わる教科の基礎となる						
成績評価基準と方法		定期試験(100%)					
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			人に説明ができるようになることを目標に、授業に取り組むこと。				

開講年次		1年後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	人間発達学			担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎堀田 祥司				
実務経験		○	肢体不自由児施設勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい		人間は生涯発達する存在であり、対象者がどのようにして現在の状態に至った(発達した)のか、またこれからどのようになっていくのか(発達していくのか)を知ることは重要である。また、障がい児への理学療法を理解するための基礎となる概念や理論、反射・反応、発達検査、運動発達等の人間発達学を広く理解する。						
到達目標		①発達の概念/理論/検査について理解する。 ②反射、反応/運動発達について理解する。 ③胎児期から老年期までの各発達段階の特徴を理解する。 ④乳・幼児期における運動発達について説明できる。 ⑤乳・幼児期における精神発達について説明できる。 ⑥乳・幼児期における言語発達について説明できる。 ⑦小児期における運動発達について説明できる。 ⑧小児期における精神発達について説明できる。 ⑨小児期における言語発達について説明できる。 ⑩青年期における身体構造の変化について説明できる。 ⑪青年期における生理機能の変化について説明できる。 ⑫青年期に生じる心理・社会的変化について説明できる。 ⑬成人期における身体構造の変化について説明できる。 ⑭成人期における生理機能の変化について説明できる。 ⑮成人期に生じる心理・社会的変化について説明できる。						
回数	講義計画					予/復時間		内容
第1回	オリエンテーション/小児理学療法の特殊性					0.5/0.5		①③
第2回	小児疾患について					0.5/0.5		①③
第3回	発達概念					0.5/0.5		①③
第4回	発達理論					0.5/0.5		①⑤⑧
第5回	発達検査					0.5/0.5		①②
第6回	姿勢反射・反応					0.5/0.5		②
第7回	運動発達(0～6ヶ月)					0.5/0.5		②④⑦
第8回	運動発達(7～9ヶ月)					0.5/0.5		②④⑦
第9回	運動発達(10～18ヶ月)					0.5/0.5		②④⑦
第10回	姿勢反射・反応と運動発達のまとめ/6歳までの発達					0.5/0.5		②④⑥⑦⑨
第11回	上肢機能・言語機能の発達					0.5/0.5		⑥⑨
第12回	ADLの発達(遊び・食事・排泄・更衣)					0.5/0.5		⑤⑧
第13回	感覚・知覚・認知・社会性の発達					0.5/0.5		⑤⑧
第14回	学童・青年・成人・老年期の発達					0.5/0.5		⑩⑪⑫⑬⑭⑮
第15回	まとめ					0.5/0.5		①～⑮
教科書	上杉雅之/監『イラストでわかる人間発達学』医歯薬出版							
参考文献	上杉雅之/監『イラストでわかる小児理学療法』医歯薬出版、富田豊/編『小児科学』医学書院							
授業方法	講義(3～14講義の確認テストを行います)							
関連科目	小児科学、小児系理学療法治療学							
成績評価基準と方法		授業態度(20%)、確認テスト(20%)、試験(60%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)								

開講年次		1年後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名		一般臨床医学		担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎高折 洋				
実務経験		○	医師(内科医)として臨床					
科目のねらい		臨床医学を学ぶには、その基礎知識の習得は必須である。知識習得は単なる暗記ではなく、次のステップに進むための糧となるものでなければならない。次のステップとは、高学年の講義、実習、国家試験合格、試験合格後の現場実践等、各々の目標に向かっての生涯学習等である。医学の学習は身の回りの問題が多く、馴染みやすいところもある一方、つかみどころのない難解な場面に遭遇すること多い。難解な分野も基礎がしっかりしてい固め、楽しく一步一步を登っていけるようにする。所々に医療現場の本音も取り入れていく。						
到達目標		①医学をこれから学ぶにあたって基礎的な知識を身に着ける。 ②特に臨床と直結した基礎知識の習得に重点を置く。 ③基礎知識が現場でなぜ必要かも理解する。 ④将来の理学療法実習に役立つ臨床現場の実情と雰囲気を可能な範囲で理解する。 ⑤将来の実習や、現場での勤務に必要な医学的雑学を身に着ける。 ⑥感染症の分類について説明できる。 ⑦感染経路について説明できる。 ⑧感染予防について説明できる。 ⑨廃用症候群について説明できる。 ⑩廃用症候群の分類について説明できる。 ⑪代表的な廃用症候群(褥瘡、関節拘縮、筋萎縮)の病態について説明できる。 ⑫老年症候群の分類について説明できる。 ⑬代表的な老年症候群(認知症、フレイル、サルコペニアなど)の病態について説明できる。 ⑭薬物療法について説明ができる ⑮外科的治療について説明ができる ⑯栄養管理について説明ができる						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	診察の基本、医療面接、バイタルサインの診察						0.5/0.5	①②⑤
第2回	病歴聴取と症候						0.5/0.5	①②⑤
第3回	口喝と、糖尿						0.5/0.5	⑨⑩⑪⑫
第4回	末梢血検査と感染症の基礎知識						0.5/0.5	⑥⑪
第5回	感染症分類感染対策						0.5/0.5	⑥⑪
第6回	血尿、蛋白尿と腎臓						0.5/0.5	⑪⑫
第7回	肝炎について						0.5/0.5	⑪⑫
第8回	心電図と心疾患						0.5/0.5	⑪⑫
第9回	胸痛を認める疾患						0.5/0.5	⑪⑫
第10回	血栓症と薬物療法						0.5/0.5	⑭
第11回	脳血管障害						0.5/0.5	⑪⑬
第12回	画像診断について						0.5/0.5	⑬
第13回	換気障害と代表疾患						0.5/0.5	⑪⑮
第14回	呼吸不全と呼吸管理ついて						0.5/0.5	⑮
第15回	高齢者と高齢者疾患の特徴						0.5/0.5	⑯
教科書	特になし							
参考文献	適時配布							
授業方法	原則対面講義で配布資料にそって解説							
関連科目	各種疾患学							
成績評価基準と方法		筆記試験(80%)、受講態度等(20%)						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)		毎回の小テストを徹底的に復習し、完全に身に着ける。						

開講年次		1年後期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	リハビリテーション医学			担当教員【◎は科目責任者】				知
				◎清水 浩之				
実務経験		○	理学療法士として臨床					
科目のねらい		理学療法が対象とする障害についての理解を深め、障害のメカニズムを理解できることを目標に講義する。 また、各疾患においては疾患概要から評価・検査、障害構造、リハビリテーション治療までの理解を深めることを目標とする。						
到達目標		①障害について、各種説明することができる。 ②各疾患について説明することができる。 ③廃用症候群について説明できる。 ④廃用症候群の分類について説明できる。 ⑤代表的な廃用症候群(褥瘡、関節拘縮、筋萎縮)の病態について説明できる。 ⑥代表的な老年症候群(認知症、フレイル、サルコペニアなど)の病態について説明できる。 ⑦疼痛の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑧筋緊張異常の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑨関節可動域制限の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑩筋力低下の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑪創傷、靱帯損傷の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑫骨損傷(骨折、疲労骨折など)の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑬運動麻痺の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑭感覚異常の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑮平行機能低下の病態とそのメカニズムについて説明できる ⑯認知機能低下の病態とそのメカニズムについて説明できる						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	科目オリエンテーション、リハビリテーション医学とは？						0.0/1.0	①②
第2回	関節可動域制限って何？関節可動域制限が生じるメカニズムは？						0.0/1.0	⑨⑪
第3回	関節可動域制限がある・なしはどうやって確かめる？ 関節可動域制限はなぜ生じている？						0.0/1.0	⑨⑪
第4回	疼痛・感覚異常って何？疼痛・感覚異常が生じるメカニズムは？						0.0/1.0	⑦⑭
第5回	疼痛・感覚異常がある・なしはどうやって確かめる？ 疼痛・感覚異常はなぜ生じている？						0.0/1.0	⑦⑭
第6回	筋力低下って何？筋力低下が生じるメカニズムは？						0.0/1.0	⑩⑫
第7回	筋力低下がある・なしはどうやって確かめる？ 筋力低下はなぜ生じている？						0.0/1.0	⑩⑫
第8回	全身持久力・筋持久力って何？全身持久力・筋持久力が生じるメカニズムは？						0.0/1.0	
第9回	全身持久力・筋持久力がある・なしはどうやって確かめる？ 全身持久力・筋持久力はなぜ生じている？						0.0/1.0	
第10回	運動麻痺・筋緊張異常・協調運動障害って何？ 運動麻痺・筋緊張異常・協調運動障害が生じるメカニズムは？						0.0/1.0	⑧⑬
第11回	運動麻痺・筋緊張異常・協調運動障害がある・なしはどうやって確かめる？ 運動麻痺・筋緊張異常・協調運動障害はなぜ生じている？						0.0/1.0	⑧⑬
第12回	バランス・平行機能低下って何？バランス・平行機能低下が生じるメカニズムは？						0.0/1.0	⑮
第13回	バランス・平行機能低下がある・なしはどうやって確かめる？ バランス・平行機能低下はなぜ生じている？						0.0/1.0	⑮
第14回	廃用症候群について考えよう						0.0/1.0	③④⑤
第15回	老年症候群について考えよう						0.0/1.0	③⑥
教科書	上田敏『リハビリテーション基礎医学第2版』医学書院							
参考文献	三上真弘/監『リハビリテーション医学テキスト』南江堂 上月正博/他編『crosslinkbasic リハビリテーション医学』MEDICAL VIEW							
授業方法	共同学習型授業							
関連科目	解剖学、生理学、運動学、理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、姿勢動作分析学 運動療法学Ⅰ・Ⅱ、物理療法学Ⅰ・Ⅱ							
成績評価基準と方法	出席率(10%)、課題提出(90%)							
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	復習を習慣的に取り入れ臨むこと。内容として難しいと思います。 できる限り自身の言葉で順序だてて説明することが重要であると理解し受講 いただきたいと思います。							

開講年次	1年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	リハビリテーション概論		担当教員【◎は科目責任者】				知
			◎市田 修一				
実務経験	○	理学療法士として臨床					
科目のねらい	リハビリテーションの理念・過程、諸領域、理学療法士の役割、社会福祉制度等、各項目について講義形式を中心とし、グループ活動も交えながら学習する。						
到達目標	①広義のリハビリテーションについての理解を深める。医療・福祉・介護の連携について学び、リハビリテーションの中での理学療法士の役割を理解する。 ②理学療法とリハビリテーションの違いについて説明できる。 ③理学療法、理学療法学の学問的範囲ならびにその広がりについて説明できる。 ④対象者の基本的権利を理解し説明できる。 ⑤自己決定権の意義を踏まえながら対応できる。 ⑥インフォームド・コンセントの意義と必要性を理解できる。 ⑦医療および理学療法の歴史的な流れとその意味を説明できる。 ⑧理学療法士に求められるさまざまな役割、法的義務について説明できる。 ⑨社会的背景、多様な価値観を認識し柔軟な対応できる。 ⑩状況に応じて説明責任を果たすことができる。 ⑪医学の歴史について説明できる ⑫リハビリテーションの理念について説明できる ⑬リハビリテーション医療の定義と歴史について説明できる ⑭リハビリテーション医療の特徴について説明できる ⑮医学的情報(病理・生理・画像診断を含む)について説明できる ⑯心身機能・身体構造について説明できる ⑰活動について説明できる ⑱社会参加について説明できる ⑲背景因子(環境因子及び個人因子)について説明できる ⑳リスク管理について説明できる ㉑機能的帰結の予測について説明できる ㉒リハビリテーションプログラムの立案について説明できる ㉓リハビリテーションチームについて説明できる ㉔チーム医療・多職種連携について説明できる						
回数	講義計画					予/復時間	内容
第1回	リハビリテーションの概念・理念・定義					0.5/0.5	①②⑦⑪⑫⑬
第2回	健康と障害の概念と分類					0.5/0.5	⑮⑯⑰⑱⑲
第3回	障害の心理的・社会的視点					0.5/0.5	④⑤
第4回	人の発達と評価-特に小児					0.5/0.5	③
第5回	リハビリテーション過程					0.5/0.5	㉑㉒
第6回	リハビリテーションの諸段階					0.5/0.5	⑥⑧⑭⑲
第7回	医療とリハビリテーション専門職と役割					0.5/0.5	①⑩⑲
第8回	チームアプローチ					0.5/0.5	①⑩⑲
第9回	ADL、QOLの概念と評価法					0.5/0.5	⑤⑨⑰⑲
第10回	医療機関で行うリハビリテーション治療と義肢・装具					0.5/0.5	③⑧⑭⑲
第11回	地域リハビリテーションと社会資源、在宅ケア					0.5/0.5	③
第12回	高齢者・健康対策と少子化対策					0.5/0.5	㉔
第13回	医療・福祉制度					0.5/0.5	
第14回	医療法・福祉関係法					0.5/0.5	
第15回	まとめ					0.5/0.5	①
教科書	田島文博/編『リハビリテーション概論』						
参考文献	中村隆一/編『入門 リハビリテーション概論』医歯薬出版						
授業方法	パワーポイント、配布資料を用いての講義とグループ活動						
関連科目	理学療法概論						
成績評価基準と方法	筆記試験、出席状況、授業態度等を総合して評価する。						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	日々の勉学、特に復習が必要である。積極的に授業に参加し学習すること。 他者の迷惑となるような行為は行わないこと。						

開講年次	1年前期		分野	専門基礎	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	理学療法概論		担当教員【◎は科目責任者】				知
			◎市田 修一				
実務経験	○	理学療法士として臨床					
科目のねらい	理学療法の歴史、定義、法律、役割、対象や方法等を講義形式を中心とし、グループ活動を交えながら教授する。						
到達目標	①理学療法と理学療法士について理解を深める。将来、理学療法士になるために、医療機関や福祉・保健機関、その他の機関で働く際の責任感や考察力を身に付けていく。 ②理学療法の定義について説明できる。 ③理学療法とリハビリテーションの違いについて説明できる。 ④理学療法、理学療法学の学問的範囲ならびにその広がりについて説明できる。 ⑤理学療法士としてのアイデンティティについて説明できる。 ⑥対象者の基本的権利を理解し説明できる。 ⑦自己決定権の意義を踏まえながら対応できる。 ⑧インフォームド・コンセントの意義と必要性を理解できる。 ⑨医療および理学療法の歴史的な流れとその意味を説明できる。 ⑩理学療法士に求められるさまざま役割、法的義務について説明できる。 ⑪社会的背景、多様な価値観を認識し柔軟な対応できる。 ⑫状況に応じて説明責任を果たすことができる。 ⑬理学療法士及び作業療法士法について説明できる。 ⑭法令に基づく理学療法士のあり方について説明できる。 ⑮理学療法の概要について説明できる ⑯理学療法の歴史について説明できる ⑰理学療法の役割について説明できる ⑱理学療法の過程について説明できる ⑲「理学療法モデル」について説明できる ⑳理学療法の職域について説明できる ㉑各病期(急性期、回復期、生活期、介護・終末期)における理学療法の意義や目的について説明できる ㉒理学療法士の職能について説明できる ㉓理学療法士の職能について説明できる ㉔理学療法士の教育課程について説明できる ㉕理学療法士としての研究について説明できる ㉖理学療法の実施とその対価(診療報酬・介護報酬など)について説明できる						
回数	講義計画				予/復時間	内容	
第1回	理学療法の定義、各種技術				0.5/0.5	②⑮	
第2回	理学療法の歴史、リハビリテーション				0.5/0.5	③⑨⑯	
第3回	理学療法士の関連法規				0.5/0.5	⑥⑩⑬⑭	
第4回	理学療法士の役割、対象、領域				0.5/0.5	⑤⑦⑧⑫⑰	
第5回	臨床思考、理学療法プロセス				0.5/0.5	⑱⑳	
第6回					0.5/0.5		
第7回	理学療法士の活躍の現場				0.5/0.5	㉑	
第8回					0.5/0.5	㉒	
第9回	理学療法士の職能				0.5/0.5	㉓	
第10回	理学療法士教育、フィールドワーク				0.5/0.5	⑲㉔	
第11回	理学療法研究				0.5/0.5	④㉕	
第12回					0.5/0.5	⑭	
第13回	管理・運営				0.5/0.5	⑩⑭㉖	
第14回	リスク管理・医療事故				0.5/0.5		
第15回	感染予防策				0.5/0.5		
教科書	細田多穂/監『シンプル理学療法学シリーズ 理学療法概論テキスト』南江堂						
参考文献	石川朗/編『15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 理学療法概論』中山書店 上杉雅之/監『イラストでわかる理学療法概論』医歯薬出版						
授業方法	パワーポイントや配布資料を用いての講義とグループ活動。						
関連科目	リハビリテーション概論						
成績評価基準と方法	筆記試験、出席状況、授業態度等を総合して評価する。						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)	日々の勉学、特に復習が重要である。積極的に授業に参加すること。他者の迷惑となるような行為は行わぬこと						

開講年次		1年通年		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	理学療法基礎実習			担当教員【◎は科目責任者】				知・技・表態・ 思・判
				◎岡林豊、相星裕生、井口祥平、井口奈保美、市田修一、大井直樹、木下拓真、木村彩子、久保明裕、清水浩之、藤井隆太、松村明保				
実務経験								
科目のねらい		理学療法士養成教育において「臨床実習」は、養成施設で修得した知識や技能を手がかりに、「養成施設では経験できない実践環境で、より一層の理解を深めるための教育機会」です。実践環境とは実際の医療・福祉・保健機関となります。そこには患者様だけではなく、さまざまな職種のスタッフがおられます。そのため、実習に臨むにあたり学生の諸君には相応の準備と目的意識の明確化が必要となります。 本講義では臨床実習に向けて必要な準備を自身が能動的に行えることを目標に、臨床実習の目的意識の明確化を図る。						
到達目標		①理学療法の見学等を通して、業務の概要と対象者の全体像を知る。 ②測定会を通して、検査測定の実験を積み、基本的な検査測定ができる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	実習前オリエンテーション①						0.5/0.5	①
第2回	実習前オリエンテーション①						0.5/0.5	①
第3回	スタンダードプリコーション						0.5/0.5	①
第4回	実習前オリエンテーション②						0.5/0.5	①
第5回	学外実習(医療提供施設等)①						0.5/0.5	①
第6回	学外実習(医療提供施設等)②						0.5/0.5	①
第7回	学外実習(医療提供施設等)③						0.5/0.5	①
第8回	学外実習(医療提供施設等)④						0.5/0.5	①
第9回	実習後ホームルーム						0.5/0.5	①
第10回	実習FB、実習報告書FB						0.5/0.5	①
第11回	測定会オリエンテーション						0.5/0.5	②
第12回	測定会(検査測定)①						0.5/0.5	②
第13回	測定会(検査測定)②						0.5/0.5	②
第14回	測定会(検査測定)③						0.5/0.5	②
第15回	測定会(検査測定)④						0.5/0.5	②
教科書	指定なし(適宜配布)							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	オリエンテーション、実習、測定会							
関連科目	基礎ゼミナールⅠ、表現論、理学療法概論、リハビリテーション概論							
成績評価基準と方法		出席率、提出課題、臨床指導者評価を基に各担当教員が評価を行う。また、臨床実習に繋がる科目性質上、社会的基礎力を重要視し、評価する。また、実習前オリエンテーションを受講しないものに関しては、実習への参加を原則認めない。						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)			実習施設の職員、指導者の指示に従い、 本校学生の立場をわきまえ行動すること。					

開講年次	1年後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	理学療法評価学Ⅰ		担当教員【◎は科目責任者】				知・技
			◎市田 修一				
実務経験	○	理学療法士として臨床					
科目のねらい	理学療法評価総論、生理機能検査、形態測定、脳神経検査、疼痛評価、深部腱反射、高次脳機能についての学習を実技を含めて行う。科目を履修することにより、検査測定の意義や目的を理解し、対象者に説明できるとともに、正確で再現性のある検査測定が対象者の行えることが展望である。						
到達目標	①理学療法評価の目的と評価方法について説明できる ②検査・測定技術を習得し、正確に実施できる。 ③理学療法評価実施項目のスクリーニング検査について説明できる ④理学療法評価を実施する時期について説明できる ⑤理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる ⑥理学療法実施に関わる情報の整理の仕方が説明できる ⑦理学療法に関わる情報の整理ができる						
回数	講義計画				予/復時間		内容
第1回	総論(講義:評価の目的と概要)				0.5/0.5		①⑤
第2回	総論(講義:評価の目的と概要)				0.5/0.5		④⑦
第3回	総論(講義・オリエンテーション)				0.5/0.5		③⑦
第4回	バイタルサイン測定(講義・実技)				0.5/0.5		①②③⑥
第5回					0.5/0.5		
第6回	バイタルサイン測定の実技練習				0.5/0.5		①②③⑥⑦
第7回	形態測定(講義・実技)				0.5/0.5		①②③⑥
第8回					0.5/0.5		
第9回	形態測定の実技練習				0.5/0.5		①②③⑥⑦
第10回	脳神経検査(講義)				0.5/0.5		①②③⑥
第11回	疼痛評価(講義)				0.5/0.5		①②③⑥
第12回	深部腱反射(講義・実技)				0.5/0.5		①②③⑥⑦
第13回	高次脳機能(講義)				0.5/0.5		①②③⑥
第14回	実技練習 (オリエンテーション・バイタルサイン測定・形態測定・腱反射測定)				0.5/0.5		①②③⑥
第15回					0.5/0.5		①②③⑥⑦
教科書	望月久/編『理学療法評価学』医歯薬出版 田崎義昭/他著『ベッドサイドの神経の診かた』南山堂						
参考文献	潮見泰蔵 下田信明/編 『リハビリテーション基礎評価学』羊土社						
授業方法	講義と実技形式にて実施。						
関連科目	理学療法評価学Ⅱ・Ⅲ						
成績評価基準と方法		筆記試験(5割)、実技試験(5割)、出席率、授業態度を総合して評価。					
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)				実技時は、正確に修学できるように半袖・半ズボンで出席すること。積極的に授業に臨むこと。 実技の実施日については、その都度 連絡する。			

開講年次		1年後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名	理学療法評価学Ⅱ			担当教員【◎は科目責任者】				知・技
				◎岡林 豊				
実務経験		○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい		ヒトの身体動作を発言するために必要な関節機能と骨格筋機能を評価するために、「関節可動域測定法」と「徒手筋力検査法」について学ぶ。						
到達目標		①関節可動域測定法の評価方法を説明できる。 ②関節可動域測定法の基本技術を独力で実践できる。 ③徒手筋力検査法の評価方法を説明できる。 ④徒手筋力検査法の基本技術を独力で実践できる。 ⑤検査測定を行う上でのリスクについて想起し、対応できる。 ⑥検査結果を正確に判定し、表記できる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	関節可動域測定とは						0.5/0.5	①②⑤⑥
第2回	股関節の可動域測定						0.5/0.5	①②⑤⑥
第3回	膝関節、足関節の可動域測定						0.5/0.5	①②⑤⑥
第4回	肩関節の可動域測定						0.5/0.5	①②⑤⑥
第5回	肩甲帯の可動域測定						0.5/0.5	①②⑤⑥
第6回	肘関節、手関節の可動域測定						0.5/0.5	①②⑤⑥
第7回	頸部・胸腰部の可動域測定						0.5/0.5	①②⑤⑥
第8回	徒手筋力検査法とは						0.5/0.5	③④⑤⑥
第9回	肩甲骨の筋力評価						0.5/0.5	③④⑤⑥
第10回	肩関節の筋力評価						0.5/0.5	③④⑤⑥
第11回	肘関節、手関節の筋力評価						0.5/0.5	③④⑤⑥
第12回	股関節の筋力評価						0.5/0.5	③④⑤⑥
第13回	膝関節、足関節の筋力評価						0.5/0.5	③④⑤⑥
第14回	頭・頸部の筋力評価						0.5/0.5	③④⑤⑥
第15回	体幹の筋力評価						0.5/0.5	③④⑤⑥
教科書	Dale Avers/他著『新・徒手筋力検査法 第10版』協同医書出版社、隈元庸夫/著『臨床ROM 測定からエクササイズまで 第2版』HUMAN PRESS							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	実技を中心に行い、方法を確認する。							
関連科目	理学療法評価学Ⅰ・Ⅲ							
成績評価基準と方法		実技を中心に行い、方法を確認する。						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)				動きやすい服装にて受講すること。 予習・復習をすること。				

開講年次		1年後期		分野	専門	単位(時間)	1(30)	必須
科目名		レクリエーション		担当教員【◎は科目責任者】				知・技
				◎木下 拓真				
実務経験		○	病院勤務(理学療法士)として臨床					
科目のねらい		体育祭への参加。 介護保険施設で実施されている集団体操やレクリエーションを紹介するとともに、グループに分かれ学生自らが考案したものを実施してもらう。						
到達目標		①信頼関係の構築と協働作業の実践ができる。 ②個々の特性を理解したうえで目標達成する能力を養う。 ③個別指導のポイントについて説明できる。 ④集団指導のポイントについて説明できる。						
回数	講義計画						予/復時間	内容
第1回	体育祭						0.5/0.5	
第2回							0.5/0.5	
第3回							0.5/0.5	
第4回							0.5/0.5	
第5回							0.5/0.5	
第6回	集団体操とレクリエーションの意義について						0.5/0.5	
第7回							0.5/0.5	
第8回	介護保険施設で実施されている集団体操の実際						0.5/0.5	
第9回	高齢者レクリエーションの実際						0.5/0.5	
第10回							0.5/0.5	
第11回							0.5/0.5	
第12回	グループエクササイズ考案と実施						0.5/0.5	
第13回							0.5/0.5	
第14回							0.5/0.5	
第15回							0.5/0.5	
教科書	指定なし(適宜配布)							
参考文献	指定なし(適宜指示)							
授業方法	集団指導、実技指導							
関連科目								
成績評価基準と方法		出席率、授業態度、レポート提出等						
その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)				学生全員が参加できるように配慮する。				